

\*\*\* 協働事業提案制度について \*\*\*

- ◆ 「協働事業提案制度」とは・・・  
地域の身近な課題について、市民の皆さんの提案を基に、市との協働で解決していく事業です。提案団体の皆さんと市がともに知恵や力を出し合い、内容の実現性を高めながら、事業の実施に向けて取り組んでいきます。
- ◆◆ 今年度はパイロット事業として実施しています  
事業の公募・採択、事業の実施・評価などを検証しながら、提案型の協働事業の制度構築を目指します。

\*\*\* プロジェクト検討会について \*\*\*

- ◆ 「プロジェクト検討会」とは・・・  
公開プレゼンテーションを経て採択候補事業について審査を行うほか、事業実施に向けた助言や、協働事業提案制度の構築に向けた協議等を行います。
- ◆◆ プロジェクト検討会の構成員は次の6名です（敬称略・順不同）  
阿部 俊昭（社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会 事務局長）  
伊藤 浩子（特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター 事務局長）  
榊原 進（特定非営利活動法人 都市デザインワークス 代表理事）  
椎木 秀行（税理士・公認会計士）  
高浦 康有（東北大学大学院経済学研究科 准教授）  
白川 由利枝（仙台市市民局市民協働推進部長）

<参考> 採択候補事業審査にあたっての基準

① 課題の把握	・的確に課題を把握し、課題解決のための事業目的が明確に設定されているか。
② 相乗効果	・多様な主体が参画し、より効果的な課題解決に寄与しているか。 ・行政との協働により、より有効な課題解決に寄与しているか。
③ 事業効果	・事業内容が、課題の解決に十分に寄与するものであるか。
④ 実現性・計画性	・具体的かつ実現可能な計画となっているか。 ・経費の見積もりは、事業内容に見合った妥当なものであるか。
⑤ 先進性、独創性、新規性等	・課題解決の手法や取り組み等において、従来よりも効果的であるか。 また、独創的であるなどの要素が含まれているか。
⑥ 発展性	・事業を実施することで、さらなる取り組みが実施されるなどして、今後も含めた課題解決に寄与するか。

\*\*\* 協働事業提案制度に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします \*\*\*

仙台市市民局市民協働推進課 協働推進係  
仙台市青葉区二日町 1-23 仙台市役所二日町第4仮庁舎（アーバンネット勾当台ビル）2階  
電話 022-214-8002 FAX 022-211-5986

（仮称）仙台市協働事業提案制度 平成24年度パイロット・プロジェクト

# 公開プレゼンテーション

○日時：平成24年7月8日（日） 13:00～15:00  
○場所：仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター

## 次 第

- 13:00 開会  
公開プレゼンテーションについての説明  
プロジェクト検討会 委員紹介
- 13:10 提案団体のプレゼンテーションと質疑
  - ① 市民協働による地域防災推進実行委員会  
プレゼンテーション（15分）  
質疑（15分）
  - ② 仙台傾聴の会  
プレゼンテーション（15分）  
質疑（15分）
  - ③ 特定非営利活動法人 未来環境福祉ネットワーク  
プレゼンテーション（15分）  
質疑（15分）
- 14:40 講評
- 15:00 閉会  
※「来場者意見シート」回収  
（会場受付の「意見シートBOX」へ）

皆様に「意見シート」をお配りしています。  
提案事業についてのご意見やメッセージをぜひお寄せください！



## 提案事業について(概要)



提案団体名 市民協働による地域防災推進実行委員会

提案事業名 地域で支える防災協働ネットワーク  
～仙台版体験型避難ゲームづくり～

### 事業の概要

東日本大震災時には公助の限界が改めて明らかになり、住民による地域の防災基盤強化の必要性を強く感じました。東中田地区は、大地震発生時には津波警戒も必要であり、地域の防災基盤の構築がより望まれる地域となっています。この事業は、震災前から防災意識の向上や教育の促進に努めてきた各団体などと連携し、震災の教訓を活かした「自助・共助・連携」の視点から地域コミュニティの活性化を図る新たな「仙台版体験型避難ゲーム」の開発と実践普及を目指すものです。事業の効果は地域住民の新たな防災意識の向上、防災教育の取り組みの促進につながるほか、未来の子どもたちに伝える取り組みの一助となるものです。そして、被災地仙台から教訓を活かす「体験型避難ゲーム」を作成し、普及させることにより、国内外の多くの支援をしてくださる人々への復興メッセージとしたいと考えています。

### 協働の必要性

「体験型避難ゲーム」作成に向けて多様な団体の専門的知識等による検討が必要であるほか、具体的な実践・普及啓発のためには地域・学校・行政等の協力・連携が不可欠であり、それによって初めて震災の教訓を未来に伝えることができると考えます。

提案団体名 仙台傾聴の会

提案事業名 心のサポーター育成事業

### 事業の概要

この事業は、2013年3月までに仙台市民を対象に100人心のサポーターとして育成することを目的とします。心のサポーターとは、厚生労働省で行っている認知症サポーターの「傾聴」版です。「傾聴」とは、相手の話を否定しないでありのままを受け止め、共感的に聴く事、そして相手の存在を認める事です。この人間関係の基本でもある「傾聴」の心得のある人材の育成を行います。昨年の東日本大震災では「傾聴」の必要性が大きく求められ、市民のニーズも高まっています。今後の超高齢社会における在宅独居高齢者への対応に「傾聴」の必要性があり、施設入居者の生活の質の向上にも繋がると考えます。自殺予防のゲートキーパーになり得る市民を増やす機会、また、市民に広く「傾聴」の意義を理解して頂く機会をつくり、市民相互が支え合う社会の実現を目指します。

### 協働の必要性

心のサポーター養成講座には、年代や活動分野を限定せず、幅広い市民の皆様に参加していただきたいと考えています。そのためにも、行政や関係機関とともに講座内容から一緒に検討し、実施していきたいと考えます。

提案団体名 特定非営利活動法人未来環境福祉ネットワーク

提案事業名 地域通貨を活用した  
仮設住宅コミュニティ活性化支援事業

### 事業の概要

この事業は、「リサイクル推進・環境教育」を柱とした仮設住宅コミュニティ活動の促進・活性化と、新しく移り住んだ地域の近隣商店および商店街との関係を深めることを通じた地域の活性化を目的とします。具体的には、地域通貨(アトム通貨)を活用した事業です。仮設住宅自治会として再生可能資源(ペットボトル、空き缶、トレ一等)を回収していただき、それに対してアトム通貨を発行。アトム通貨は自治会の自主財源となります。このアトム通貨を、仮設住宅自治会が主催(認定)する活動(清掃、植栽、健康イベント等)に参加した人に対し、ありがとうの気持ちを込めて付与。アトム通貨は、近隣の商店街および商店にて使用することができます。閉じこもりがちな仮設住宅住民のコミュニティ活動参加を促し、併せて近隣の商店街の活性化も目的としますが、その根底は「ありがとう」の気持ちを伝えるという「アトム通貨」のミッションに基づくものです。

### 協働の必要性

この事業は、地域の中で環境と共生する小さな循環を実践・実感・展開するもので、仮設住宅支援を行っている様々な団体等と協働することにより、コミュニティ活性化につながるものと考えます。事業のより円滑な推進のため、行政との協働が重要です。